

お風呂屋さん

日本人は「きれい好き」だと言われています。また「風呂好き」だとも言われています。たしかに若い人の間では「朝シャン」族と呼ばれ、毎朝かならずかみを洗う人が多いです。これは少し洗いすぎかも知れません。入浴についても厚生省の調べによると内風呂（自分の家にある風呂）がある人の中で、ほとんど毎日風呂に入ると答えた人が約50%、1日おきに入る人がおよそ30%、残りの20%ぐらいが、二、三日おきに入るそうです。外のお風呂屋さん（別名銭湯）へ行く人たちの中では、週に2度行く人が最も多いそうです。

お風呂と言えば、日本人の入るお風呂の平均温度は40度から42度くらいで、人によっては45度でもぬるいと言う人さえいます。けれどもあまり熱すぎるお風呂は、からだによくありません。ほかの国々では大体38度くらいだそうです。ですから外国から来た人は、みんな日本のお風呂は熱すぎると言います。

このごろは、お風呂屋さんの数がだんだん少なくなりました。風呂付きでないアパートの人は困ります。それに内風呂のある人でも、お風呂屋さんへ行きたい人も少なくありません。サウナ、泡風呂、薬湯、季節によって特別なお風呂や朝風呂もあります。1年中早朝4時から開いているお風呂屋

さんもあるそうですが、これは大 ^{たいへんめずら} 変 ^{ふる} 珍 ^や しいです。お風呂屋 ^{あら} さんはからだを洗
うだけのところではなくて、昔 ^{むかし} から人 ^{ひと} と人 ^{ひと} との交 ^{こう} 流 ^{りゅう} の場 ^ば でした。このごろ
は、外国 ^{がいこくじん} 人も ^み ちらほら見 ^み えて、お風呂屋 ^{ふるや} さんも ^{こくさいてき} 国際 ^{こく} 的 ^{さい} になってきました。

『日本語中級読解入門』より